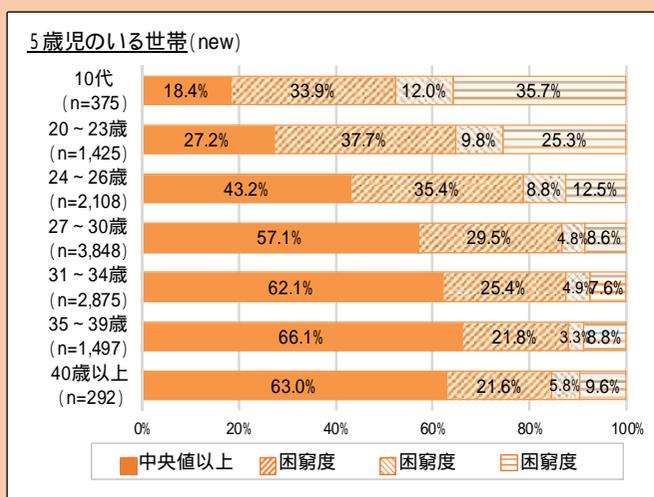
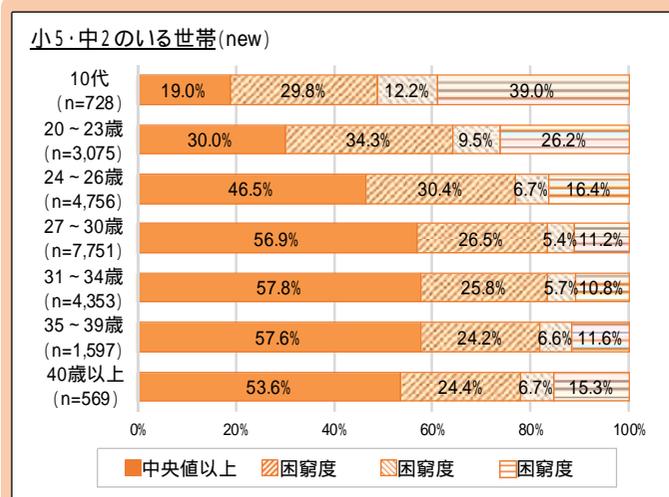


第1回こどもの貧困対策に関する推進計画策定部会

資料12「大阪市子どもの生活に関する実態調査の結果について」の一部修正について

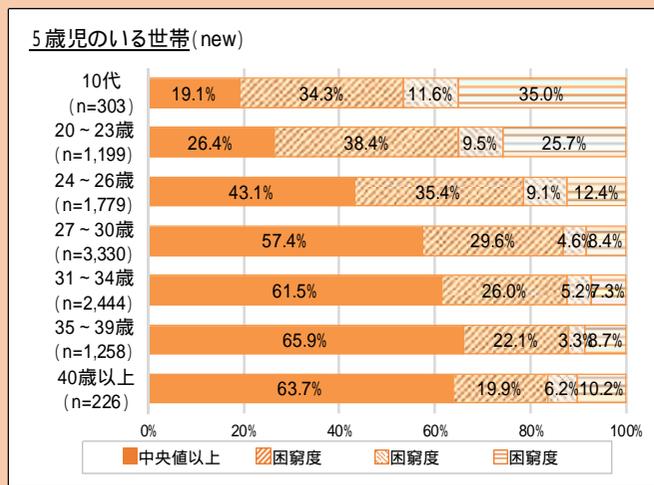
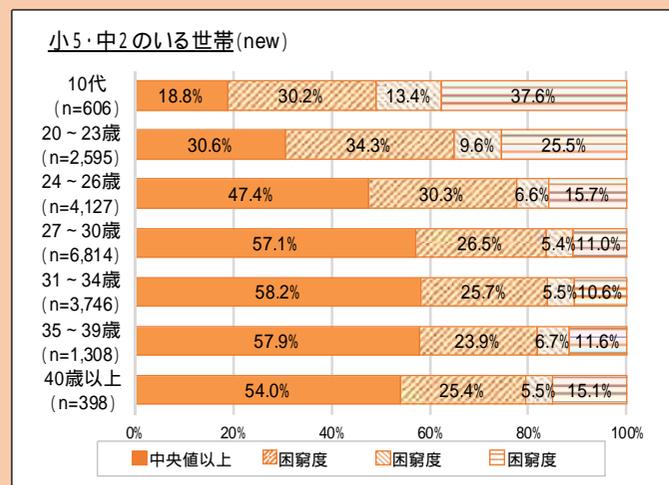
資料 12 の 8 ページ、「3 初めて親となった年齢別に見た母親の状況」の「初めて母親となった年齢別に見た、困窮度(母親が回答者)」のグラフについて、全回答者を対象としたグラフを掲載していたため、グラフを差し替えるとともに、グラフの説明文を修正します。

(修正前)



母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に困窮度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群が最も困窮度の割合(相対的貧困率)が高くなり、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では39.0%、5歳児のいる世帯では35.7%となっています。

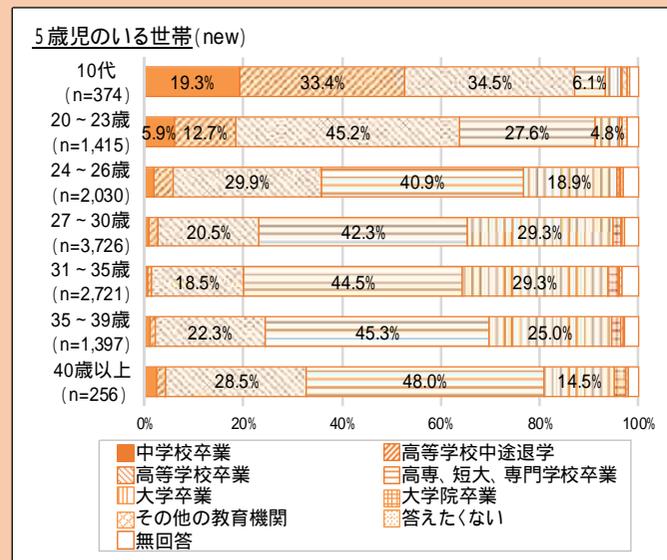
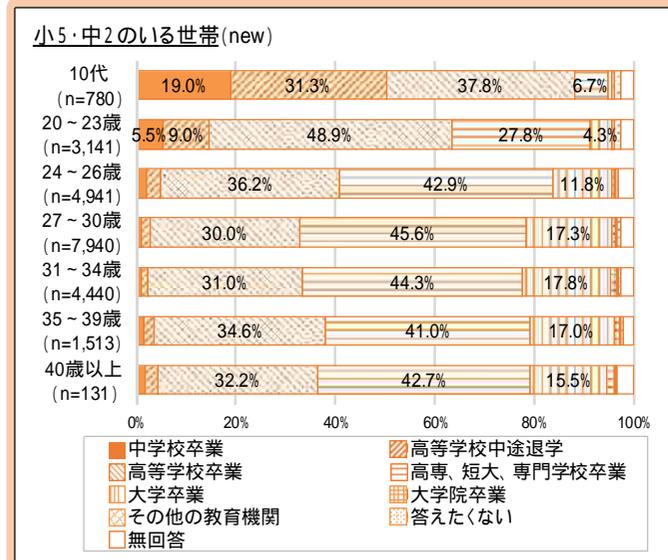
(修正後)



母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に困窮度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群が最も困窮度の割合(相対的貧困率)が高くなり、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では37.6%、5歳児のいる世帯では35.0%となっています。

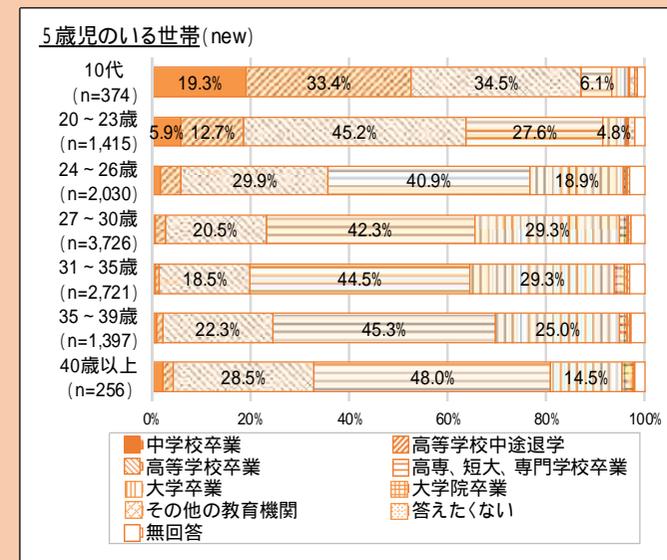
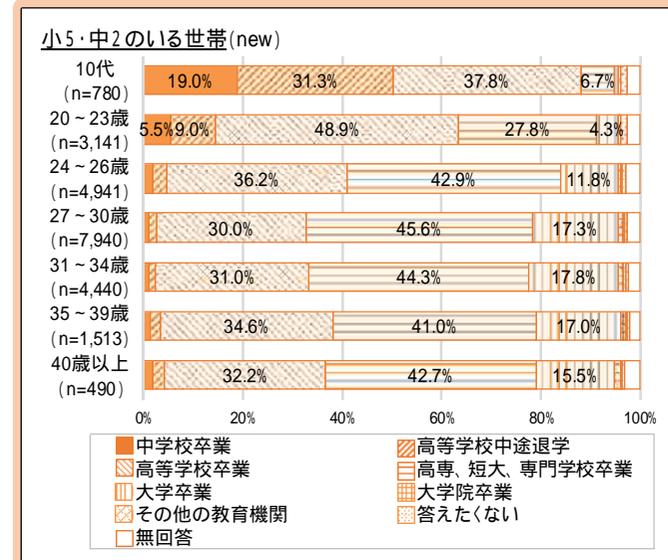
資料 12 の 9 ページ、「3 初めて親となった年齢別に見た母親の状況」の「初めて母親となった年齢別に見た、母親の最終学歴(母親が回答者)」のグラフのうち、小5・中2のいる世帯の40歳以上の回答者数の数値を誤入力していたためグラフを差し替えます。

(修正前)



母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親の最終学歴を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群で中学校卒業と高等学校中途退学の割合が特に高く、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では50.3%、5歳児のいる世帯では52.7%と、ともに半数を超えています。

(修正後)



母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親の最終学歴を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群で中学校卒業と高等学校中途退学の割合が特に高く、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では50.3%、5歳児のいる世帯では52.7%と、ともに半数を超えています。